

実のならないいちじくの木

ルカによる福音 13:1-9

そして、イエスは次のたとえを話された。「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか。』園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。』

説教

なかなか気づけないんだけど誰もが何かを選んでいると思う。分かれ道になっていけば右に行くか左に行くかを決める、選ばなければ前にすすまず、立ち止まることになってしまう。そして困ったことに、選んだ方の道がっているのか間違っているのかはやってみなければわからない。

悔い改めよ、さもなくば滅びるぞ、というのがきょう福音のメインメッセージ。

具体的には悪を選ばず善を選べ、善とは唯一の神だ。

悔い改めとは、真の神を選び悪から離れろということでしょう。

でもこれだけでは逃げ道がない。そんなにすぐに決めなくてはいけないの、といたくなってしまう。

きょうの福音ではあと1年まってくださいとお願いしています。ほんとにあと1年待てばなんとかなるのか、それともなにも変わらないのかについてはわかりません。ただの先延ばし、時間稼ぎかもしれないけれど園丁の頼みをご主人さまは受け入れました。

このたとえ話をキリスト教の制度にあてはめてみれば、悔い改めの証拠とし

て先延ばしはほどほどに洗礼を受けなさい、そうすれば救いがあります、ということになります。なにかほんとうに説教くさくて、本音のところではちょっと勘弁してよかな。でも、誰もが選択を迫られていることは事実です。自分のこととしてかえりみてください。
